



一般社団法人 アクト・ビヨンド・トラスト 2016 年度公募助成のご案内

～ ネオニコチノイド系農薬に関する企画 ～

一般にはまだあまり知られないまま、お米から果物まで、ときには「減農薬」の切り札として用いられ、シロアリ駆除剤や防虫剤として身近な暮らしにも入り込んでいるネオニコチノイド系化合物（およびフィプロニル）——。有機リン系農薬の代替物として 1990 年代に開発されて以来、国内外を問わず使用が急拡大するネオニコチノイド系農薬は、その浸透性・残留性・神経毒性から、ミツバチの大量失踪が示唆するように生態系と生物多様性全体を脅かすばかりか、子どもたちの脳の発達にも悪影響をおよぼす可能性が指摘されています。

EU での使用禁止措置をはじめ世界的に研究や規制が進んでいますが、日本では各地で民間の削減努力が生まれつつある一方、全体的にはいまだ規制緩和の方向です。本助成は、予防原則を踏まえて、ネオニコチノイド系農薬の被害を防ぎ、規制のあり方や一般市民の消費行動を変える働きかけ、ネオニコチノイド系化合物の影響を市民の立場から検証する調査・研究、そしてすでに多くの環境化学物質と放射能に取り巻かれた私たちが、ネオニコチノイド系農薬にどう対処していくべきかを探る公共的な議論喚起など、問題解決に向けた効果的な取り組みを支援します。ふるってご応募ください！（応募要項など申請書類一式は下記リンクよりどうぞ）

<http://www.actbeyonddtrust.org/program/#program1>

1. 応募資格：ネオニコチノイド系農薬（およびフィプロニル）に関する問題提起や、使用の削減ないし中止に取り組む個人および団体（ボランティアグループ、NPO/NGO、公益法人、研究機関、生産者など。地域、法人格、活動実績は不問）
2. 助成金額：総額 300 万円
 - a) 調査・研究部門（合計 100 万円）
 - b) 広報・社会訴求部門（合計 100 万円）
 - c) 市場“緑化”部門（合計 50 万円）
 - d) 政策提言部門（合計 50 万円）
3. 助成対象期間：2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日の間に実施される活動
4. 応募受付期間：2015 年 12 月 7 日（月）～2016 年 1 月 29 日（金）消印有効
5. 問い合わせ先：一般社団法人アクト・ビヨンド・トラスト 助成係
電話：070-6551-9266（10:00～19:00）
Email: grant@actbeyonddtrust.org
<http://www.actbeyonddtrust.org>
<https://www.facebook.com/actbeyonddtrust>



一般社団法人アクト・ビヨンド・トラストは、自然環境と人間生活の調和を目的とした市民や NPO・NGO の活動を支援する、独立した民間基金です。問題解決のための具体的・効果的・創造的なアクションを重視し、資金援助、コンサルティング、技術および人材提供、トレーニングなどを行なっています。詳しくは上記ホームページや Facebook をご覧ください。

前年度までの公募助成企画例

2012～2015 年度に採択された公募企画の例です。多くの企画は複数の部門にわたる助成になっていますが、企画の主な内容に即して部門別にご紹介します。

詳しくは、アクト・ビヨンド・トラスト web サイトの「助成プログラム」（公募助成）をご参照ください。2014 年度までの各助成対象企画について報告書をご覧いただけるほか、同サイトの「助成先活動情報」では、2015 年度助成対象企画の活動状況をリアルタイムで取り上げています。

<http://www.actbeyondtrust.org>



調査・研究部門：

大学や公的機関の助成に乗りにくい、一般市民の視点に立った独立性の高い調査や研究のプロジェクトなど

●ミツバチの持ち帰る花粉荷中の含有農薬検査(2014) ●空中散布されたネオニコチノイドの飛散調査(2013) ●フィプロニルを成分とする苗箱施用殺虫剤のリスクを緩和する栽培方法の探索(2013)

広報・社会訴求部門：

ネオニコチノイド問題をより多くの人びとに伝え、どのように対処していけばいいかをともに考えるプロジェクトやメディアを巻き込んだ対話など

●「つなげたい！ひろめたい！ミツバチまもり隊！」(2015 滋賀県高島市周辺地域) ●「浸透性農薬の生態系影響についての日本国内の生態学コミュニティへの普及啓発活動」(2015 日本自然保護協会によるシンポジウム開催) ●「生きもの元気米(生物多様性認証米)の取り組みによるネオニコチノイドフリーエリアの拡大」(2014 石川県河北潟) ●ミツバチからのメッセージ(2013～2015 長野県伊那谷を中心にダンスミュージカルと映像制作) ●ミツバチの側からみた蜂群大量死の実態をひろめるプロジェクト(2012～2013 絵本制作)

市場“緑化”部門：

生産者、流通業者、消費者にまたがるネオニコチノイド系化合物の利用経路に沿って、被害を最小化するためのプロジェクトなど

●「農場から食卓までを通じたネオニコフリーの実践に向けた意識調査と啓発」(2015 宮城県でのアンケート調査とシンポジウム開催) ●「集落営農によりつくるネオニコフリーエリアと田んぼトレーサビリティへの取り組み」(2015 石川県河北潟) ●ネオニコフリー・生きもの認証システムの推進(2012～2013) ●「生きもの認証システム基礎基準」における生きもの観察指導員(Bio アナリスト)養成、「ネオニコフリー農業による地域づくり」のパイロットプロジェクト構築、およびそれらの実績の公表(2013)

政策提言部門：

農薬をめぐる規制や利権構造のあり方を変えていくために、中央と地方の政府および議会、製薬会社、JA といった関係者に働きかけ、一般市民や地域住民と協働するプロジェクトなど

●浸透性農薬が生物多様性と生態系に及ぼす悪影響に関する「世界総合評価」(WIA)の成果普及と議論喚起(2014) ●ネオニコチノイド系農薬フリー地域づくり(2013 茨城県内 3 地域) ●斑点米カメムシ類による経済的損失回避策の転換に関する秋田県への要請(2013) ●有害農薬の規制を目指す持続可能な農業キャンペーン(2013 消費者意識調査にもとづく署名集約と提出)